

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 岩田 玲

	主査	教授	生駒	一憲
審査担当者	副査	教授	山本	有平
	副査	教授	岩崎	倫政
	副査	教授	篠原	信雄

学位論文題名

骨粗鬆症性脊椎椎体骨折に対する保存治療の効果と骨癒合の予測
(The Effect of Conservative Treatment and the Prospect of Union Status
for Osteoporotic Vertebral Compression Fracture)

本研究は後ろ向き研究で骨粗鬆症性脊椎椎体骨折に対しテリパラチド(1-34 リコンビナント副甲状腺ホルモン製剤)がビスフォスフォネート製剤に比較し骨癒合率が有意に高いことを示し、前向き比較試験を導入した。骨癒合を阻害する背景因子を脊柱骨盤配列を含め調査し、ビスフォスフォネート製剤導入後の骨癒合の予測因子に酒石酸抵抗性酸フォスファターゼ(TRAP5b)が使用できる可能性を示した。本研究の結果により骨癒合を阻害する背景因子と骨癒合の予測因子を参照し、テリパラチドを導入する治療方針を示すことができた。

審査にあたり、副査の山本有平教授から骨粗鬆症治療薬であるテリパラチドが椎体骨折に保険適応があるか質問があり、申請者は脆弱性椎体骨折が重度の骨粗鬆症と定義され適正使用であると回答した。副査の岩崎倫政教授から本研究で困難な点は何か質問があり、申請者は前向き比較試験のデザインを作成する際に薬剤の剤型が決まっており、二重盲目を断念した経緯を回答した。副査の篠原信雄教授から高齢男性にテリパラチドは有効か質問があり、申請者は多変量解析で性別に有意差がなく有効であると回答した。主査の生駒一憲教授から、プロトコールに軟性コルセットを選択した理由について質問があり、申請者は硬性コルセットと軟性コルセットの比較試験が進行中であるが、Number Needed to Treat の観点から臨床的に有意義と感じない差であるならば、軟性コルセットの装着率の良さに利点があることを考慮したと回答した。

この論文は、骨粗鬆症性脊椎椎体骨折の保存治療において薬剤選択を中心とした治療体系を示したことについて高く評価され、得られた結果は今後手術加療が減少する可能性を示唆するものである。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士(医学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。